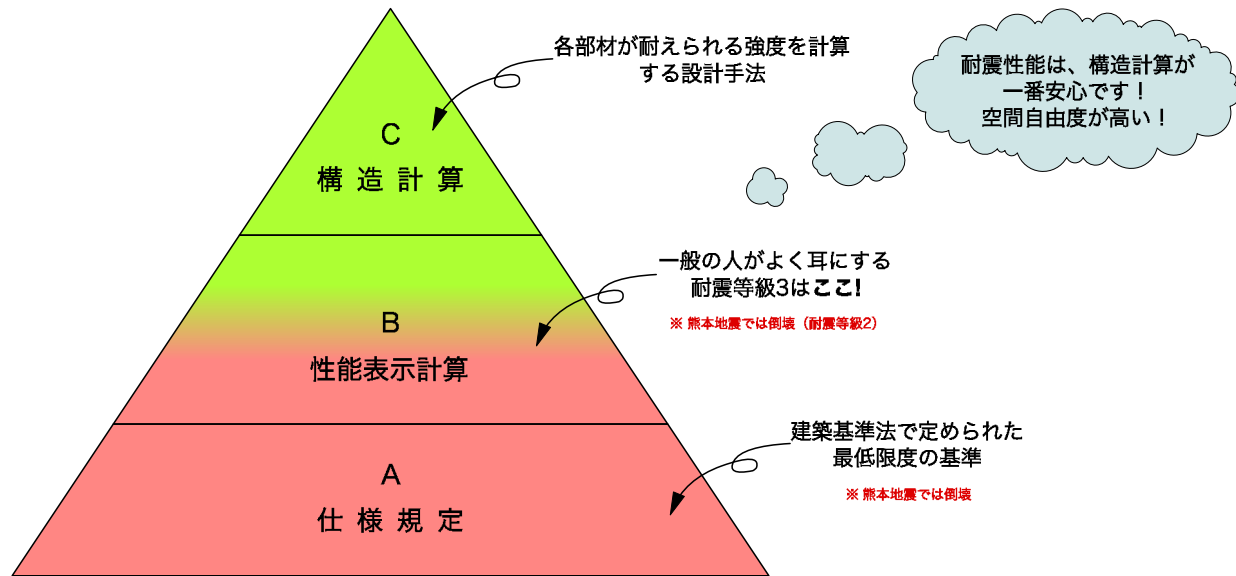



木造住宅耐震性能ランク



A : 仕様規定



← 壁量計算・四分割法・N値計算など


- 地震・風圧による壁量計算
- 耐力壁のバランス計算
- 柱の引抜き耐力計算など

仕様規定を満たした構造図を添付するよう義務づけられています。

これが、耐震等級1

※ 熊本地震では倒壊した住宅が多く存在しました。

B : 性能表示計算



← 1.5倍 (耐震等級3)
← 1.25倍 (耐震等級2)

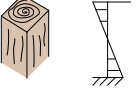
Aの仕様規定に1.5倍で耐震等級3
Aの仕様規定に1.25倍で耐震等級2

住宅の品質確保の促進等に関する法律 (品確法) 第三者機関で審査して性能評価が受けられます。

性能表示計算する場合は、性能評価を受けて耐震等級を確認する必要があります。

※ 熊本地震では耐震等級2でも倒壊した事例があります。

C : 構造計算



← 1.5倍 (耐震等級3)
← 1.25倍 (耐震等級2)

各部材応力判断

- 許容応力度計算
- 許容応力度等計算
- 保有水平耐力計算など

住宅規模では、許容応力度計算により各部材が地震・風圧に対して許容できるか判断します。
許容応力に1.5倍で耐震等級3
許容応力に1.25倍で耐震等級2

※ 許容応力度計算の耐震等級2で、性能表示計算の耐震等級3と同等程度の強度があります。構造バランスも考慮するので、より安全性が高い計算方法と言えます。